

明けましておめでとうございます。
謹んで新年のお祝いを申し上げます。

今回の年末年始の間、東京地区は天候に恵まれ、特に正月三が日は快晴でした。有り難いことに、元旦早朝6時57分に拙宅の窓から神々しい初日の出を拝むことができ、新年の始まりを身体で感じることができました。毎年正月は我が家の愛犬（現在16歳11ヶ月の黒ラブ：体重30kg）と一緒に散歩に出ていたのですが、去年の9月から老齢のため足腰が立たず、愛犬と一緒に散歩でお日様を拝むのは無理と諦めていた私には、窓越しからの初日の出は最高でした。

皆様のお正月はいかがでしたか。穏やかで、ゆったりとしたお正月を過ごされたことでしょうか。

さて、昨年の出来事として私の記憶に残るのは、ふたつあります。一つ目は、北里大学の¹大村先生がノーベル医学生理学賞を受賞されたことです。大村先生の業績が素晴らしいことは勿論でしたが、大村先生のお人柄と社会に対する姿勢に大変感銘を受けました。定時制高校の教員から研究者に転じた経歴に驚かされますが、常に弱者に配慮し、社会への貢献を行動の規範にされている生き方は誰もが敬服するものでしょう。また、私費で故郷に美術館を建てて、蒐集した美術作品も寄贈し、地元の文化芸術の振興に尽力され、謙虚で、お金への執着も無く自然体に振る舞われる言動は日本人の鏡と言えます。私には、それは大村先生が子供頃から耕作に従事し、研究者になってからも土壌と触れ合ってきたことが多大の影響を与えて来たと思えてなりません。「大地との対話」が大村先生の生き方を築き上げたと感じています。

二つ目は、昨年12月にパリで開かれたCOP21です。世界196カ国・地域が参加して、2020年以降の温暖化対策「パリ協定」を採択した意義は大きいと思います。史上初めて温暖化防止に向けて世界が約束したことは歴史的なことで、会議を運営した仏政府の尽力も評価されることです。米国の共和党支持者のみならず、世の中には温暖化懐疑論者は多いのですが、化石燃料を大量に消費した結果、大気中の二酸化炭素の濃度が急上昇したことは事実であり、将来の子供達に美しい自然や安全な大気を残すのは我々の使命であることを踏まえ、一刻も早く温暖化防止施策を展開して行くべきでしょう。思考の原点は、常に未来の子供達に置くべきです。

それから、昨年「下流老人」という表現が話題になりました。「生活保護基準相当で暮らす高齢者及びその恐れがある高齢者」のことを指します。昨年3月時点で、65歳以上の生活保護受給世帯は78万世帯強（全受給世帯の約48%）にもなるそうで、このままいくと高齢者の9割が貧困化するとのこと。最近、普通の生活をして来たサラリーマンが定年後、貧困に転落するケースが増えているとのこと。年金生活に入ってから、病氣

で医療費がかさんだり、熟年離婚で収入は半分になったりしたら、暮らしを維持することは出来なくなります。正社員になれず、生計も満足に立てられない息子たちしかいなければ頼ることも出来ず、更に高齢者介護施設にも入居できなければどうなるのでしょうか。若者の非正規雇用や低所得が問題になっていると同時に、シングルマザー、子供達に加え、とうとう高齢者までもが貧困に苦しむ世の中になって来ました。

一部の富めるものと大多数の貧しいものとの差がどんどん開いていくように思えます。働くひとり親世帯世帯の貧困率はOECD34カ国中、日本が最悪と言うデータもあります。日本の税負担は公平なのでしょう。日本の税制の「所得控除」は所得税率の高い富裕者層ほど大きく減税される制度で、低所得者層にとっては恩恵が少なく、「消費税」も低所得者層に負担が重い制度になっています。今月から年収1200万円以上の会社員や公務員等を対象にした増税が始まるそうですが、もっと抜本的な取組みが必要に思えます。

驚いたことに、株を売った場合に課税をしないシンガポールや香港等の国に永住する日本人は、2013年には約1万7千人いて、10年余り前より10倍の増加だそうです。税金の支払いを逃れる富裕者がどんどん増えている一方で、こども、若者、シングルマザー更に高齢者の貧困が増えている現実はどう対処していけばいいのでしょうか。

隣近所に（多少おせっかいなくらい）気を配った社会が失われ、核家族が浸透し、ネット社会がどんどん広がり、隣人を思いやる、いたわるという昔からの慣習が消えました。街中で行き交う人達もお互いどこの誰かであるかも興味なく、ただ黙々とすれ違って行く様は本当に寂しいものがあります。極親しい人との時間のみを大切にし、廻りに起きていることには極力関わらない人達が増え続けていると思えてなりません。

我々、日本人とは一体何なのでしょう。今生きていて、これからも生きて行く我々自身のことを皆でそろそろしっかり見据えていかないと大変なことになるように思えます。明治から昭和の時代に活躍した鈴木大拙の代表作のひとつに「日本的靈性」という本があります。鈴木大拙は、27歳で渡米して、仏教や禅を世界中に広めた大変な人物です。その彼が太平洋戦争の最中（昭和19年）に書いて、戦後の日本人の心の拠り所は何なのかを示した書が「日本的靈性」です。私は、今年一年この本をじっくり読み込んでみたいと思っています。

それでは、今年一年の皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。引き続き皆様方の温かいご支援・愛顧をお願い申し上げます。

平成28年元旦

株式会社サイモンズ

代表取締役社長

斉川 満

